

Education Exhibit Award

Education Exhibit — Magna Cum Laude 受賞報告

LL-NRE2801

Post-treatment Imaging in Head and Neck Cancer : What the Radiologist Needs to Know

(頭頸部腫瘍の治療後画像診断：放射線科医が知っておくべきこと)

齋藤 尚子*¹ / Rohini N. Nadgir *² / 中平 光彦*³ / 高橋 正洋*¹
内野 晃*¹ / 木村 文子*¹ / 酒井 修*²

* 1 埼玉医科大学国際医療センター画像診断科

* 2 Department of Radiology, Boston Medical Center, Boston University School of Medicine

* 3 埼玉医科大学国際医療センター頭頸部腫瘍科

このたび、RSNA 2010 Education ExhibitにてMagna Cum Laudeを受賞できましたことを大変光栄に思っております。前回、前々回のRSNAに引き続き、今回もEducation Exhibitにてこのような高い評価をいただきましたことを感謝いたしております。

受賞の対象となりました発表は、頭頸部腫瘍の治療後画像所見について、頭頸部腫瘍の治療法や治療後再発・合併症、経過観察における画像評価の役割など放射線科医が知っておくべき臨床的知識とともにまとめたものです。当センターは、埼玉県全域をカバーする包括的がんセンターの役割も担い、患者さんを腫瘍内科医、腫瘍外科医、放射線診断医・腫瘍医が共同して治療方針を決定し、治療にあたっています。症例が非常に多いこと、そして日々の診療で生じた疑問や発見をこの発表に生かすことができたことが、受賞の最大の要因と思います。

頭頸部腫瘍の外科的治療法には、さまざまな術式があります。筋皮弁などによる再建術後では、日常診療で行われる視診、触診、内視鏡検査だけでは術後の状態を十分に把握することが困難な場合が多く、再発や治療後合併症を早期に発見するため、CTやMRIなど画像での評価が重要となります。しかし、治療後画像は、外科的治療のほか、放射線治療後の変化が加わるため、治療前画像や正常画像解剖と大きく異なり、頭



頸部腫瘍の治療後画像診断に苦手意識を持たれる方が少なくないと思われます。このため、治療後の画像所見と臨床的知識を再度整理してまとめることは、診療の向上に大変重要と考えました。

この受賞を励みに、日常診療、研究、そして後輩の教育にさらに精進してまいりたいと考えております。最後に、ご指導とご協力をいただきました木村文子先生、内野晃先生をはじめとする当大学の諸先生方とボストン大学の酒井修先生に心よりお礼申し上げます。